

第1回 総務部会 議事録

(1) 日 時：令和6年7月11日（木）午後7時より、（ジオアリーナ）

(2) 参加者：委員8名、事務局9名

(3) 内 容

1. 部会長あいさつ

2. 資料説明及び意見交換

①校章の選定方法について【資料1】

②校歌の選定方法について【資料2】

《資料説明及び意見交換》

（校章の選定方法について）

事務局 ・総務部会は本日が第1回目となる。この部会では学校の根幹となるような事項について協議いただく。昨年度は校名の選定について協議・決定をいただいた。また、中学校再編準備委員会では他に三つの部会を置いている。この三つの部会の調整ということもお願いしたいと考えており、総務部会には各部会のリーダー的な方々にお集まりいただいた。本日は校章・校歌の選定方法についてご協議いただきたい。校章は今年度中に作成したいと考えている。校歌は次年度の作業内容となるが、今年度中に予算要求をしなければいけないのでどのような形で校歌を選定していくか意見をお聞きしたい。まず、校章の選定方法について事務局より提案する。校章の選定については、他小中学校の事例などを参考に原案を考えた。校章のデザインに関しては、長く市民に愛されるものを考えると一定のクオリティの確保が大事になる。どのような形でお手伝いいただくかは別にしても専門家のご協力が必要と考える。また、専門家の方に関わっていただくのであれば一定の業績のある方で可能であれば勝山あるいは福井に縁のある方が良いと考えている。専門家の方をお願いする際になるべく子ども達の意見も取り入れたい。数点のデザイン案を作ってください、それを選考する際にも子ども達の意見を反映したい。このような形で原案を考えた。資料1をご覧ください。デザイン性を有することから専門業者に依頼して中学生の意見を取り入れながら数点の案を作成していただき、小学校4～6年生と中学生に投票してもらい、投票結果を参考に総務部会および中学校再編準備委員会の協議を経て市教育委員会で決定する。このような案になる。専門業者に係る基本的な考え方としては、デザイン作成に一定の実績を持った方で勝山あるいは福井に縁のある人物をお願いしたいと考えている。また、作成にあたっては他校の校章のデザインと類似していないことの確認も依頼したいと考えている。昨年度の予算要求の段階ではこうした考え方をベースに30万円程度の予算を確保している。以上の提示案についてのご検討をお願いします。

部会長 ・今までの説明に関してご意見等あればお願いします。

委員1 ・校章は、学校に所属していることが一目でわかるようなデザインというイメージがあり、中学校の中の字のものが自分の時にはあった。デザインは色々な形で意匠を凝らすと思うが華やかなイメージなのか、威厳を保つようなイメージなのか、大まかな方向性を決めた方が良いと思った。

事務局	・デザインについて、事務局として厳格な形でとか、シンプルな形でとか、いろいろな要素を盛り込んでとか、そうした方向性を持っているわけではない。こんな形が良いというご意見があればお聞かせいただきたいと思う。
委員 2	・身に着けていて親しみが湧くことが前提だと思う。あとは子ども達が着けたくない、隠したいと思うものでは駄目だと思う。かっこいいとか、好きだとか、そう思えるようなシンプルなものだったり、綺麗なものだったり、そのようなものになると思う。依頼する際にはデザイナーの思いだけではなく、着ける側の気持ちに立ったデザインということ意識していただけると良いと思う。
事務局	・ありがとうございます。ご指摘をいただいたように、子ども達の意見を取り入れ、活かしながら考えていきたいと思う。
部会長	・他にあるか。
委員 3	・ある程度、しっかりとしたコンセプトを打ち出した上でデザインを依頼する必要があると思う。勝山中学校は勝山市で唯一の中学校になるので、勝山の顔を表すくらいインパクトも個人的には必要かと思う。校名の時には桜であったり、恐竜であったり、いろいろ出てきた。そういうものを一つのコンセプトとしてデザイナーにお願いし、ある程度大人の方で構築した上で子ども達の意見をそこに入れていく形が良いと思う。全てを子ども達に委ねてしまうと心配なこともあるため考慮する必要があると思う。
事務局	・最初にいただいた子ども達が誇れるようなマークであるとか、あるいは勝山の顔であるとか、そうしたご指摘はデザイナーが決まればそのまま伝えていきたいと思う。
部会長	・他にあるか。
委員 4	・デザイナーの候補者は決まっているのか。また、デザイナーは1名なのか、それとも複数名なのか。
事務局	・具体的に誰と決まってははいない。予算が30万円ぐらいなので複数人がグループを組んでというのは難しいと思っている。
委員 5	・複数案を選ぶという形があったと思うが30万円だと難しいと思った。校章を決める経験は貴重だと思う。できればデザイナーが直接子ども達に校章のデザインに込めた思いや願いについて話をする機会を設けてほしい。校章を決めるというだけではなく、専門の職人と触れ合うという機会を通じてリアルな声を届けてあげると良いと思った。そうしたことに協力してくれる方を選ぶと良いと思う。
事務局	・ご意見いただいたように貴重な経験となるため、デザイナーがどういう思いで作っていくのかということも直接お話しを聞かせていただけるような方をお願いしたいと考えている。極力そうした機会を取りたいと考えている。
部会長	・他にあるか。
委員 6	・校章は変化がつけ難いと思う。勝山市では多少デザインの差異はあるが基本的に中の字だけになる。意見を取り入れるといっても実際に反映するのは難しいと思う。デザイナーからこういうコンセプトで作ったというのを説明してもらい、それを受けて子ども達が選択する形が良いと思う。
部会長	・他にあるか。
委員 7	・デザイナーが決まった際には、そのデザイナーの考案した案を数点出しても

らい、そこから子ども達に選んでもらう形になると思う。その際にどういう意味があって何故そのデザインになったのかをある程度示してもらい、子ども達に理解してもらった上で選んでいくと良いと思う。勝山高校の校章は、小笠原氏の家紋をベースに高の字をつけている。それを知ることによってベースとなった家紋の歴史を考える機会になる。また、由来を知ることによって子ども達の校章に対する理解が深まり納得する。どういう意味で、どういう文字で、どういう思いを込めて作っているかがわかるように進めて欲しいと思う。

事務局 ・小笠原氏の話が出たので付け加えると成器西小学校や成器南小学校のように小笠原氏の流れを汲んだ地域だけの学校ではなく、勝山市内全域の学校になる。デザインの選定にあたっては一部の地域の方だけでなく、全ての地域の方に愛されるものをお願いしたいと思う。

部会長 ・校章が使用される場面としてどのような場面を想定しているか。

事務局 ・今までの使用の仕方では、制服の胸部につけるとか、ボタンにつけるとか、服装の中での使用が多かったが今回は服装規定の中でそうした指定を極力外していく形をとるため、現状、制服への使用は想定していない。ご指摘いただいたように学校のマークになるので例えば学校名の横に校章がつくことが可能性としてある。その他では校旗に使用されると思われる。

部会長 ・校章の話で言うと、私立の話にはなるが東京の開成中学校の校章はペンと剣が交差しているものになり中の字は使われていない。非常にシンプルなデザインであるが開成中学校の校章として広く認知されている。そのようなものでも良いと思う。中の字を前提に考える必要はないと思う。既存のものに縛られることでデザイナーの発想を狭めてしまいかねない。極端な話をすると勝山市のマークでも良いし、恐竜のマークでも良い。敢えてそういう考え方もあるというのをご提案させていただいた。

事務局 ・いただいたご意見はそれぞれ参考にさせていただく。

部会長 ・校章については以上とする。続いての説明を事務局よりお願いする。

(校歌の選定方法について)

事務局 ・校歌の選定方法について説明する。校歌については来年度の作業になるため、本日については、いろいろなご意見をいただければと思う。校歌の作成については専門性が高いことから、事務局として提案する。資料2をご覧ください。校歌について曲を作るということについても専門性が高いため専門家に依頼をする形でいきたい。手順としては、校歌を作成し、総務部会・中学校再編準備委員会にて承認をいただき、教育委員会で決定する形としたいと思う。作詞・作曲を依頼する専門家の選定方法については、基本的には交渉可能な方で希望があれば直接依頼できると良いと思うが、難しいということであれば専門業者に人選も含めて依頼することになると思う。参考として、南越前中学校、四ヶ浦小学校、城崎小学校は業者に委託している。二校の小学校については越前町になる。県内に企画会社みたいなどころがあり、そうしたところに依頼して作詞家・作曲家を選定して曲を決めていく形になる。それから福井市に今度できる九頭龍中学校では個別に希望する方に直接お願いする形をとっており、編曲や音源化を含めて依頼することによって予算取りをしている。以上、大まかな話にはなるが、いろいろなご意見をいただければと思う。

部会長	・以上の説明を受けてご意見等あるか。
委員 1	・自分が子どもの時に通っていたような学校は 70 年前とか、場合によって 100 年前から続いてきた学校かと思う。その時代に作られた校歌しか自分たちは知らない。今の時代に作られる校歌はどういう風になっているのかがわからない。全然違うものになのか、同じようなものなのか、全くわからない。
事務局	・先程の説明で参考としてあげた南越前中学校については校歌を検索すると出てくる。それを見る限り比較的落ち着いているように思う。今時な校歌という感じではなかった。ただ、学校によっては英語の歌詞があることもある。特に私立では新しいタイプの校歌を作っている学校もある。一概に今はこんな校歌になるとは申し上げ難い。
委員 2	・なるべく耳馴染みが良い、ある程度聞いたらわかるような校歌にしてほしい。聞いた時に何を言っているか全然わからないような校歌では困る。例えば大会の応援等で歌うとなった時に何回か聞けば歌えるような校歌であってほしいと思う。
事務局	・校章と同様に愛着を持って貰えるようにしたいと思う。
部会長	・他にあるか。
委員 3	・今回の校歌については新しい方に依頼する予定なのか。
事務局	・現状、事務局として案を持っているわけではないが、三中学校の校歌を作詞・作曲された方は、いずれも他界されていると思われる。
部会長	・音楽は、単調か長調かということでも変わってくる。そうした点も含めて専門家でなければ難しいと思う。金津高校の校歌で言うと歌詞の中には、金津や福井といった地名は一切出てこない。気持ちであったり、これからどうやって生きていくかであったり、そうしたものが歌われていた。非常に素敵な歌詞だと思った。校歌は世代を隔てていても共有できる。生徒だけに限らず、多くの市民が楽しみにしていると思う。
事務局	・いろいろとコネクションがあって、あの人なら話ができるとか、この人なら知っているとか、そうした情報をお持ちの方もいると思う。また何かあれば発信していただきたいと思う。以上になる。
事務局	・ありがとうございました。貴重なご意見を伺うことができ、非常に良かったと思う。今回の内容を踏まえて、校章・校歌の選定の方法について、引き続き協議を深めていきたい。本日の総務部会は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

【資料 1】校章の選定方法について

【資料 2】校歌の選定方法について